

研究テーマ	<p style="text-align: center;"><b>【Ⅲ 自分らしさを表現する造形教育を考える】</b></p> <p style="text-align: center;">自分の感じたことや考えたことを大切にしたい発想，構想を生かす題材の工夫 ～第2学年「音を描く」の実践を通して～</p>
-------	---

八千代町立八千代第一中学校・下妻市立東部中学校 教諭 中島 えり

## 1 研究テーマについて

「自分らしさを表現する造形教育を考える」という今回のテーマから、「自分らしさ」とは何なのかを考えてみた。美術教育における「自分らしさ」とは、自分の思いを自分なりの形で表現することではないかと思う。制作する過程において、生徒が楽しみながら自信をもって自分の考え、思いを表現していけることである。「自分らしさを表現する」ためには自分の感じたことや考えたことを大切にできる題材の選択が大切である。生徒たちが思い浮かべた発想や構想を、生き生きと表現していける題材の選択を考えてみた。

何もない無の状態から「自分らしさ」を表現することはとても難しい。真っ白な画用紙に鉛筆で、絵の具で描くことでさえ緊張し、制作に入れない生徒もいるのも現状である。「制作するのが楽しい。」そう感じながら制作することが自分らしい表現につながっていくのではないかと考え、興味・関心がもちやすい課題、経験のない新鮮な課題、意欲のもてる課題として「抽象絵画」の制作を考えた。

抽象表現は、うまい下手はあまり意識せずに自分なりの制作をしていくことができる。今までの写実的表現制作であると、「自分の思ったように絵を描いたりものをつくったりすることができない。」と制作に自信をもてない生徒が大半を占めてしまう。自らの作品を冷静に判断し客観的に評価する能力が備わってくる中学生には、写実的表現の中では自分の表現に自信をもてない生徒が多くなってしまふ。そのことを考えると抽象表現は、他者との技術的な力を比較せず、自信をもって制作することができる。さらに「音」という目に見えないもの、そして人によって受け取り方が違うものを表現することによって、人と比較されずうまく描けないというコンプレックスから解放され、自由に「自分らしさ」を表現できると考える。

また、抽象表現という今まで経験のない新鮮な表現に加え、モダンテクニックを使うということで制作方法にも興味をもって取り組むことができる。それらのことを考えると、技法を覚える楽しさを感じながら制作していけるはずである。モダンテクニックを使つての表現には、「自分らしい」発想を出すきっかけも与えてくれる。発想表現が苦手な生徒には、発想を生み出すヒントがモダンテクニックの中にはたくさんある。ゼロからの発想ではなく、モダンテクニックで偶然にできた形や色の中に自分らしい表現のヒントを見つけ、自分なりの感覚で組み合わせ制作をしていく。

技法から自分のイメージに合うものを選んでいくことも自分らしい表現であり、音という目に見えないものを形にしていくのも個性、自分らしさなのではないかと思いこのテーマを設定した。

## 2 実践例

(1) 題材 音を描く ～モダンテクニックで音を抽象的に表現しよう～ (第2学年)

(2) 題材の目標

モダンテクニックの表現のおもしろさと抽象的表現で見えないものを形や色であらわすことに関心を持ち、偶然にできた形や色彩の配列などから、音を表現する構想を練り創造的に表現する。

(3) 題材について

本題材では、写実的な表現から離れ単純な形と色彩とで表す抽象的な表現を試みさせようとした。主題も形が定まらないものの方が適当なので、自分が聴いてきた音、自分が好きな音のイメージを視覚化させた。また、モダンテクニックという表現方法なら、その制作過程の中で自ずと単純化や強調により抽象化する必要に迫られる。自然に抽象表現を行っていけると考え、制作の条件に入れた。

中学生が写実的な表現にあこがれることは、造形活動の発達的特質からごく自然な現象である。鑑賞の授業の中でも、写真と見間違ふような写実的な作品に生徒たちの感嘆の声があがることがしばしばある。一方で、その写実的な様式へのこだわりが美術、特に絵画嫌いの原因をつくっていることも事実であり、この2年生たちも、絵画は「苦手」「嫌い」という生徒が全体の半数以上になる。その絵画制作離れをなくすためにも抽象表現という新しい表現での題材を設定した。

抽象画に対して、おもしろそうという興味はあるものの、初めての表現方法で不安をもつ生徒もいるため、モダンテクニックや抽象表現、音を意識し色や形で表現する練習時間を授業計画の中に入れ、表現に慣れる既習授業を行えるようにした。特に音の表現練習では、生徒が音の表現を難しく考えないようにじっくりと時間かけ、音から言葉、言葉から色形とイメージを広げていけるように授業計画を立てた。この題材を通して、抽象的な表現を理解させたいとともにさまざまな画材、用具を自由に扱い表現の幅を広げて自由な表現の楽しさを味わいながら自分らしさを表現させたい。

(4) 題材の評価基準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
モダンテクニックの表現のおもしろさと抽象的表現で目に見えないものを形や色であらわすことに関心を持ち、楽しもうとしている。	偶然にできた形や色彩の配列などから、音を表現する構想を練っている。	材料や画材から生まれる偶然の効果や技法を組み合わせる創造的に表現している。	抽象表現の作品への関心を深め、そのよさや美しさ作者の心情や意図、表現の工夫を感じとり、自分の価値意識をもって味わっている。

(5) 指導と評価の計画 (10時間扱い)

※○印は時数

時間	学習内容・活動	評価基準・【評価方法】
第1次 ①	テーマについて知り、さまざまな表現方法について考える。	・作品のテーマについて興味を持ち、さまざまな表現方法に関心を持つことができた。 関【観察・学習カード】

第2次 ②	モダンテクニックの練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モダンテクニックに関心をもち、積極的に取り組んでいる。【関】【観察・練習作品】</li> <li>・モダンテクニックの技法を身につけることができた。【技】【練習作品】</li> </ul>
第3次 ①	抽象的な表現，音を描く体験をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな音を聴いて，その音からイメージしたことを色や形を使って抽象的に表現することができた。【想】【ワークシート】</li> </ul>
第4次 ④	モダンテクニックを使って音を抽象的に表現をする。  (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モダンテクニックによって偶然にできた形や色彩の配列などから，音を表現する構想を練ることができた。【想】【作品】</li> <li>・モダンテクニックから生まれる偶然の効果を組み合わせて創造的に表現している。【技】【作品】</li> </ul>
第5次 ①	鑑賞会をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品のよさや美しさ，意図や表現の工夫を感じとり，抽象表現の作品への関心を深められた。【鑑】【発表・学習カード】</li> </ul>

## (6) 本時の展開

### ◇目標

モダンテクニックを使って音を抽象的に表現することができる。

### ◇準備・資料

画用紙A4 (色画用紙・水彩画用紙など)・和紙・上質紙・型用厚紙

メディウム・マーブリング液・金粉・銀粉・クレヨン・色鉛筆・パステル・デンプンのり

水彩絵の具・アクリル絵の具

整理用ビニール袋 (ジッパー付き)

参考作品 (技法参考作品・生徒作品・抽象絵画作品)

### ◇展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価 ○発問
1 本時の学習課題を確認する。 モダンテクニックを使って音を抽象的に表現しよう ①どんな音を表現するか考える。 ②どんなモダンテクニックを身につけたか確認をする。 ③抽象的な表現の確認をする。	○今日から4時間で作品を作ります。 制作の条件は，①音を表現する ②モダンテクニックを使って表現する ③抽象的な表現をする の3つです。まず，「どんな音を表現するか。」は，自分が今まで聴いてきた音，好きな音でもいいです。例えば，「雨の音」「ピアノの音」等です。実際には聞こえない音，聞いたことのない音でもいいです。例

えば、「春の音」「自分の心の叫び声」……。どんな音でも良いので表現しましょう。次に「モダンテクニックの確認」です。今まで10個のモダンテクニックの練習をしました。そのモダンテクニックを組み合わせることで作品を完成させましょう。最後に、「抽象的な表現」で作品は完成させましょう。

- ・今まで練習したモダンテクニックの練習作品は、ファイルに整理し確認できるようにしておく。
- ・過去の生徒作品を展示し、生徒たちが制作条件を理解しやすいようにする。

## 2 制作をする。

- ① アイディアスケッチをする。
- ② モダンテクニックを使い制作する。

○制作に入りますが、制作の進め方は2通りあります。

1つは、こんな音を表現したいと決めて、その音を表現するために、どんなモダンテクニックを使いどんな構成をしていくかアイディアスケッチをしてから制作していく方法。2つめは、気に入ったモダンテクニックで制作を進め、制作をしながらどんな音に表現できているか、制作しながら音を探っていく方法。どちらでも好きな方法で制作を始めてください。

- ・アイディアスケッチから制作を進めている生徒には、制作途中での変更は自由にして良いことをアドバイスしておく。
- ・制作に入る生徒のために、さまざまなモダンテクニックの手順が思い出せるように参考作品、手順の説明を黒板やパネルに掲示しておく。

**想** モダンテクニックによって偶然にできた形や色彩の配列などから、音を表現する構想を練り始めることができた。

**【観察・アイディアスケッチ・作品】**

## 3 本時の活動のまとめをし、次時の活動の計画を立てる。

- ・なかなか制作に取りかかれない生徒には、うまくいったモダンテクニックやおもしろかったモダンテクニックを次時の授業でやってみることを勧める。
- ・本日制作したモダンテクニックは、きちんと袋に保管し次時の制作で使えるようにする。
- ・計画的に制作が進められるように、次時の制作では何から始めればよいか、どんな道具が必要であるか計画をきちんと立てさせる。

### 3 成果と課題

#### 【成果】

##### ○意欲づけ

この題材はモダンテクニックの練習から始まる授業計画にしたので、生徒たちはスタートから本題材にとっても興味をもつことができた。練習なので失敗も許されるし、練習なので技法を覚えることだけに専念できる。生徒たちは、楽しみながら技法を覚え、友達の作品から技法の工夫を学んだ。次の作品制作に向けて、意欲づけをすることができた。

#### 〔モダンテクニック〕



スクラッチ



デカルコマニー



スパッタリング



マーブリング



バチック



スタンピング



フロッタージュ



ドリッピング



パステル



にじみ

##### ○既習授業

① モダンテクニックの練習を行っていたことで、自分が行ったモダンテクニックをファイルでチェックしたり、掲示してあるモダンテクニックの説明を確認したりして、生徒たちは自主的に制作に取り組むことができていた。

#### 〔ファイルに綴じておいたモダンテクニック〕

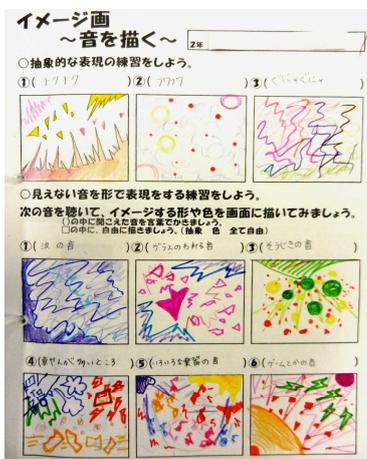


#### 〔制作の様子〕



② 抽象的な表現、音を描く表現の練習を行ったので、形とイメージを結びつける体験が経験でき、制作時、作業で戸惑う生徒は少なかった。

この既習授業では、抽象的に表現することをまず練習し、その後、音を聴いて抽象的に表す授業をした。聴いた音を最初に言葉で表し、イメージを膨らませてから色や形で抽象的に表現していった。まず、音を言葉にすることで思い描いていたことを明確にすることができたようだ。



教師に質問にくる内容は、「マーブリングの上にスパッタリングはできますか?」「パステル

は色画用紙にも描けますか？」などの技法的な質問などで「〇〇を表すためにはどんな表現をすればいいですか？」などの発想的な質問はなかった。

#### ○自由な制作

制作にあたり、迷わず自分の表現を進めることができるように、制作の方法を「アイデアスケッチを描いてからの制作」「制作しながら表現できた音を見つける」の2つ提案した。そのことによって、生徒たちは制作をどんどん進めることができた。何もせずにいる生徒はなく、何かしらの制作を自由に行っていた。作品の形も自由にし、展示の関係上台紙に貼り付けるがはみ出してもよいとしたので、つくったモダンテクニックを自由にコラージュして楽しそうに制作していた。

#### ○自分らしい作品へ

「先生、抽象画なら自信があります。」抽象画の授業が終わってニコニコしながら話しかけてきた生徒がいた。

すべての作品が個性的ということではないが、それぞれの生徒が自分の感じたこと思ったことをモダンテクニックを使って黙々と表現し、自分の思いを迷わず制作できた。これは自分らしさを表現できたことにつながったと考えられる。

美術の目標は、よい作品をつくることではなく、つけたい力を身につけさせることである。本題材で生徒たちが制作に自信をもてたことは、大きな成果である。



#### 【課題】

鑑賞会を行うと、生徒たちは画面の中の技法にばかり注目してしまい、「〇〇ちゃんの作品すごい！」という作品の技法への感嘆の言葉が目立った。題名に副題をつけ表現したかった内容を見る人にわかりやすくする工夫をしたり、何点かの作品は教師が題名や説明から生徒たちに説明したりした。しかし、十分ではなかった。展示の仕方や生徒の気づきを引き出す鑑賞カードの作成などで友達との感じ方や表現を比較しながら鑑賞できる工夫をもっと行い、鑑賞からも自分らしさを実感できるようにできればよかった。

いろいろな部分で自由な制作を提案したが、展示の関係上台紙に貼っての提出にしたので、半立体の作品にするような大きな冒険が生徒たちになかった。もっと自由に自分の思いを表現させることが今後の課題である。

《参考資料》中学校美術 2・3上 指導書 光村図書



中学生が写実的な表現にあこがれることは、造形活動の発達的特質からごく自然な現象である。鑑

賞の授業の中でも、写真と見間違ふような写実的な作品に生徒たちの感嘆の声があがることがしばしばある。一方で、その写実的な様式へのこだわりが美術、特に描画嫌いの原因をつくっていることも事実である。美術嫌いの生徒にその理由を尋ねると、「自分の思ったように絵を描いたりものをつくったりすることができないから」と答えが大半を占める。自らの作品をかなり冷静に判断し、客観的に評価する能力が備わってくる中学生に対して、指導者が個々のよさを見つけ素晴らしい励ましの言葉を用意したとしても、生徒の評価ポイントが写実的な表現様式にある限り素直に受け入れられない。鑑賞や表現活動を通して、写実以外の多様な表現方法を知ったり、体験したりすることは、幅広い物の見方や表現方法を身につける上で大切なことだと考える。そこで、抽象的な表現での制作をさせた。抽象表現は、うまく描けないというコンプレックスから解放され自由に表現できると考えられる。

自分らしさ」とは、自分が感じ取ったり、考えたことを、自分なりのかたちで表現することではないかと思う。

その人の個性がでていることを言うのであろうが、個性を出すのは難しい。

「表現」は、自ら感じ取ったこと、思い描いたこと、考えたこと、伝えたいことなどを、造形で表現したいという欲求に基づき、より美しく創造的に、そして心豊かに表現する学習である

音という目に見えないものから感じる感覚は人それぞれである。その自分が感じる感覚を大切にし、そこからイメージを広げる授業は、生徒の発想、構想を生かす題材となるであろう

そこでモダンテクニックを使って抽象絵画の制作活動をさせてみたい。今まで経験のない表現方法は、新鮮な気持ちで制作できる。抽象的な表現での制作は、写実的な表現の評価から離れ自信をもって自由な気持ちで制作できる。制作の喜びを味わえる表現活動になると思う。発想面にしても、偶然にできた形をきっかけに発想を広げるならば発想を広げやすい。抽象表現という発想力が必要な作品作り自分の感性を大切に自分の感じたイメージを色や形で自由に表現し、発想力や構想力を伸ばせるのではないかとこのテーマを設定した。

音を意識する練習授業、形や色をイメージと結びつけていく既習事項（授業）

鑑賞の際、意図的に音の種類ごとに分け展示をし、同じ音でも人によって表現の仕方が違う＝個性的＝自分らしさが表現できていることを認識させる。

自分らしさを出すことに自信を持つ。楽しさを見いだす。